発行:平成 30 年 10 月 15 日

会 議 議 事 録

会議名	平成 30 年度 第2回 教育課程編成委員会		専門学校 東京工科自動車大学校 専門学校 東京工科自動車大学校世田谷校 専門学校 東京工科自動車大学校品川校
開催日時	平成30年10月5日（金） 15:00 ～ 17:00		
会場	学校法人小山学園 東京テクニカルカレッジ 全体会・1級課程分科会 1104教場、 2級課程分科会 1101教場		
参 加 者	委員	14人	（参加者） ・佐藤 康夫（全体会議長） ◇1 級教育課程分科会 ・山口 泰之（1 級分科会議長） ・増田 智秀 ・齋藤 昭男 ・酒井 彦樹 ・宮谷 真樹 ・園田 幸祐 ◇2 級教育課程分科会 ・松村 道隆（2 級分科会議長） ・国分 秀貴 ・飯野 俊行 ・油井 文江 ・坂本 康將 ・澁谷 健 ・武井 和則 （欠席者） ・三橋 健一 ・清 宏一朗 ・飯島 寿朗 ・淺井 恵一 ・井上 真一
	事務局	1人	・開田 実
配付資料 全体会 会 議 録	全体会配布資料 ● 資料A・・・次第・名簿・全体会説明資料 ● 資料B・・・H30年第1回議事録 ◇出席者・配布資料確認（事務局） ―――――――――― 全体会 ―――――――――― 1. 開会挨拶 （全体会議長） 議長より本会議開催に向けて、本年度の教育進捗報告がなされた。 ● 就職内定状況 9月14日現在ではあるが、中野94%、世田谷100%、品川100%となっており、留学生は100%就職が決定している。 ● 履修状況 夏休み後一部の学生に出席不良が見られるが概ね順調な推移。 ● その他、本年度に行った企業連携教育と 車両教材提供をして頂いた企業様の紹介		

審議事項	2. 出席者の確認及び議長・書記の選任（事務局より） ● 出席委員14名、欠席委員5名により委員会の成立が宣言された。 ● 議長は佐藤委員長、書記は事務局が選任となる。 ● 新任の 増田委員、飯野委員の紹介がなされた。 3. 議事 ①前回議事録（H30年度第1回教育課程編成委員会）の確認・・・澁谷委員 ⇒ 全員一致で承認 ②企業連携教員技術研修の報告・・・1級分科会議長 山口委員 新機構の整備技術を教員へ学ばせることにより、「教育現場へ活かす」ことを目的とし、本年度1級課程分科会にて決定した研修の報告がなされた。 ● 開催日時： H30年7月23日10:00～17:00 ・場所：トヨタ東京カローラ㈱文教研修センター ● 参加教員：18名（東京工科グループ） ● 内容はとして午前中は、新機構（TSSP）の座学、ミリ波レーダ調整実習、となり、午後は、ハイブリッドシステムの構造機能・故障診断の座学及び故障診断実習となる。 →衝突回避などの最新の安全システムに関わる整備作業であるエーミング調整などは、全教員が体験したことがない内容であり、良い機会であった。 ● 研修後の教員アンケート抜粋「どんなに技術が進歩しても最後に点検・調整するのは整備士であることが体験でき、学生に対しても自信をもって勧められる仕事だと再認識することが出来た」等、報告がなされた。 →次年度は1級分科会委員でもある横浜トヨペット様での教員研修を予定している。 ⇒全大会での質疑はなし。報告に対し、全員一致で承認。 ③カリキュラム・ポリシー策定内容の進捗報告（事務局） ● 3つのポリシー策定の必要性と一昨年に作成したアドミッション・ポリシー、昨年に作成したディプロマ・ポリシーの振返りを報告。 ● 本年度に取組んでいるカリキュラム・ポリシーの策定内容の進捗を報告 →作成完了は年度内におこなうが、基本方針・策定フォーム・についてご理解いただきたい。 ⇒全体会での質疑なし。全員一致で承認。 全体会終了となり、各委員分科会へ ―――――――――――― 1級教育課程分科会 ―――――――――――――
1級分科会 配付資料	配付資料： 資料A：新機構新技術に関する教員研修についての報告書・まとめ 資料B：1級課程3つのポリシー
審議事項	1． 平成30年度（企業連携）新機構・新技術に関する教員研修についての報告 議長より平成30年度の教員研修について、資料をもとに以下の報告がされた。 ・特筆する内容・事由 ・研修に関する課題 ・要望 ・所感

・次回（来年度）の教員研修については、横浜トヨペット㈱様に依頼。

- （増田委員　横浜トヨペット）来年度の日程は早めに決めていただきたい。可能であれば年内に日程候補をお知らせいただきたい。受講人数も考慮いただきたい。（1教室16人で2教室確保可能）

  ⇒来年度の研修に向けて、本年中に日程の候補を決定。研修内容を東京工科と横浜トヨペット様とで打ち合わせし、次回会議で報告する。

2. 次年度以降の教員研修についての意見・要望等

- （斎藤委員　中央日産）教員向けのEVの研修で協力させていただきたい。研修内容は模索しているところ。研修場所としては、学校に講師・教材等を派遣し実施できればと思う。
- （宮谷委員　ネッツトヨタ横浜）学生向けの基礎内容の研修は世田谷で実施中。教員対象の研修はできるだけ協力していきたい。
- （山口議長）EVに関しては、整備上安全面の研修も行ってもらいたい。自動車のAI化に対応する整備士の育成が課題となっている。小山学園として、AIに対する教育を他校よりも早く実施していきたい。

  ⇒ この内容は、次回の分科会に議題としたい。
- （酒井委員　トヨタ東京カローラ）AI化に対応する整備については、外部診断機もPCとなっているので、PCのスキルが必要となってきている。
- （増田委員　横浜トヨペット）PCよりも、システムの誤診断を判断できるスキルが大切。電気回路を読める整備士が必要と考えている。

⇒1級整備士の教科書にも、電気回路が多く記載されている。電気回路を読める整備士はこれからの整備士に必須になることなので、次回の議題は「将来の整備士像」としたい。

3. カリキュラム・ポリシーについて

はじめに議長より、これまで作成されたAP、DPと本年度CP策定の説明がなされた。
入学時にAPの項目にチェックが多くつく受験生（入学生）が多い。そのままの気持ちを持って、就職するように指導に取り組んで行きたい。DPに関しては、人材目標を100%達成できるように取り組んでいく。 CPに関して、カリキュラムの構成と学習成果の評価方法の意見を求めた。

- （斎藤委員）社会人基礎力に対する評価も大切だが、「しつけ」をしっかりしていただきたいと思う。常識やマナーをつけてきてもらいたい。ただし、CPとしては科目として位置づける必要があるためプロジェクトセミナーなどは必要な科目だと思う。東京工科の特徴にもなっている。
- （宮谷委員）顧客対応力をつけてきてもらいたい。ロープレなどの学習成果があれば良いと思う。
- （酒井委員）口述試験は試験だけの対策になっている。より実践的な顧客対応能力をつけてきてもらいたい。
- （増田委員）とにかく1級整備士資格の筆記試験は合格していただきたい。不合格はお互いの悪影響になる。CPにも資格取得に関する項目を入れて合格率向上を目指してほし

	い。 ⇒ 以上の意見をもとに、カリキュラム・ポリシーの内容を精査し、策定させていただき、年度末には、書面をもってご報告させていただきます。 以上をもって散会となった。
2級分科会 配付資料 審議事項	―――――――――――――― 2級教育課程分科会 ―――――――――――――― 配布資料 :「2 級課程AP、自動車整備科DP、自動車整備科CP（案）」 議長より前回議事内容の確認がされ、本日の議案となる。 **1. 3 つのポリシー策定の確認と CP 策定について** 議長より以前から作成されているアドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの再確認を経て、カリキュラム・ポリシー策定案について意見が、求められた。 （学外委員） PDCAシステムは,高校生、企業関係者はどのくらい理解出来ているのか？ 正直社員でも分かっていない場合が多い。 PDCAを使いたいのであればあれば、PDCAについては注釈も入れても良いのではないか。 （議長） ⇒当校ではPDCAを日常的に使用して指導をしているので、一般的になってしまっているが、一般用語として通用するか再検証することとする。 （学外委員） アクティブラーニングは分かりにくい、アクティブラーニングそのものは体験的な学びを実施するという事ですよね。 高校生に対しては、横文字を使う方がいいのかなと思う事もある。 検証された方が良い。 企業の中ではあまり使わないが、高校生には漢字より軽く感じるのかなと思う。 あまり表現を固くしない方が良いのか。 文部科学省に合わせると固い表現になってしまうと思うが、学校のミッション達成のためには高校生の方に向いた方が良いのではないのか。 （議長） ⇒表現については、注釈を入れるなど対応を検討していきたい。 （学外委員） 整備士という名前も高校生には堅いイメージがあるのではないか。 （議長） 会社によって、整備士の呼称が違う、テクニシャン、サービスエンジニア、メカニックなど、統一見解をするとやはり整備士となってしまう。 （学外委員） 若い人たちにどの名前のイメージが良いのかリサーチする必要がある。 **2. 学生に身に付けさせる社会人としての一般的なスキルに対する取り組み** 参考資料 ： 就職活動ガイドブック ソーシャル検定 中級 （議長） 以前より多くの意見を頂いていた「社会人基礎力を向上させる必要がある」ことに対し、「最近の卒業生（新入社員）はどの様な部分が足らないのか。」 また、「実際の企業では、どの様な新人研修を行って補っているのか」意見を求めた。

会議風景	（学外委員） ● 整備科出身者は、営業に比べ発言力が低い。 ● 研修内での電話の受け方などの時、言葉遣いなどが問題。 ● マナーについてもちょっとおかしいぞと思うところが散見される。 ● 話が苦手な子が多いと思う。 ● マナーに乗っ取ったメールのやり取りが出来ない。内定者からの返信で名前も書いていない。返信も無いため会社からの電話を入れても知らない番号に出ない。出ても名前も言わない。 ● 学生気分が抜けておらず、研修での実習車をお客様の車と想定してやっておらず、本腰を入れてやらない。 ● 会社の書類の大切さが分かっておらず、しっかりと見ない内容を確認しない。 ● 技術で差別化出来る人材は今後いなくなるので、コミュニケーション能力や顧客対応などのプラスの教育が必要。 ● 二級課程の学生こそ必要な内容。 ● 何故コミュニケーションを学ぶのか、何故マナーを学ぶのか何故？という動機づけに時間を使うと言い。 ● 何故が多くなると現場で困る事もありますけど・・・・・ ● 何故の部分を自分で考えられるよう教育が出来ると良いと思う。 （議長） ⇒沢山頂いたご意見に対して学校でも検討を重ねて、再度ご意見を頂きたい。 （事務局） 今回のCPについての報告は、年度末に書面での報告とさせていただきます。 以上をもって散会となった。 ――――――――――――――――――――――――――――――――― ＜全体会＞ ＜1級課程分科会＞ ＜2級課程分科会＞
事務局より 次回日程	2019年 5 月を予定

以上